

鳥取の 研修医たちの声

見ているだけでなく実際に医療行為に参加させてもらえる

鳥取市立病院2年次研修医

竹内 有樹氏

早いもので、医師になってはや1年がすぎ、2年めの研修も数ヵ月めになろうとしています。鳥取市立病院では初期研修医が自分ひとりだけなので、何かとさびしさを感じるかもしれないとも考えましたが、慣れてしまえばどうということもなく、一步一步、研修を進めさせてもらっています。

市立病院は350床前後の中規模病院で、さすがに幅広さでは大学病院ほどではありませんが、手がけていることは比較的幅広く、また、さまざまなことに参加し、見ているだけでなく実際に医療行為をさせていただける環境です。

気管挿管、CV挿入、ルンパール、骨髄穿刺や胸腔穿刺、あとGIFなどなどし

ようか——その他、当然いろいろあるのですが、機会があればそれに応じてさまざまなことができます。

指導医の先生方も親身に教えてくださり、一つひとつ修得できているのが自分でもわかります。

自由な雰囲気の中で自由に泳いで研修をしたいという方なら、鳥取市立病院は多くの可能性を期待できる場所ではないでしょうか。

救急外来では、やはり最初は電子カルテの使い方がわからず、右往左往でした



が、1年ぐらいうると、不思議と上級の先生方からも頼りにされる（いや、おだてられているのか）場面も多々あり、おだてに弱い自分としてはそれが自信になったりしています。

研修は残り半年と少し。医師としての人生の、ほんの最初の入口ですが、一步一步、これからもしっかり進んでいきたいと思っています。

手づくりのオリジナルプログラムで活きた研修ができる

山陰労災病院1年次研修医

藤井 高宏氏

山陰労災病院は鳥取県西部の中核を担う病院で、さまざまな症例を学ぶことができます。特徴として感じるところは、主に以下に挙げる3つの点です。

(1) 救急研修は週末の救急外来日直を2年間通して行うので勤が鈍らない。また身体的・精神的負担の大きい当直の義務がない

(2) 2年めは、ほぼ12ヵ月の選択期間があり自由度が高く自分がやりたいことの学びを深めやすい

(3) 患者さんと直接かわりながら、自ら考え学べる機会が多い（初診患者の

first touchも豊富）

研修を初めて4ヵ月、バランス良く経験できるだけでなく、指導医に指示を確認しやすい環境にあるため安心感があります。研修医の健康面への配慮がなされているという、あたたかい心遣いも感じられ、感謝しながら日々を大切にすごしているところです。研修プログラムは、original & uniqueであり、“学びたい、知りたい、経験したい”というneedを満たしてくれます。この病院を選択したことを誇りに思いながら、名医ではなく、まずは良医をめざし、これからも努力を惜しまぬ所存です。

